【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年9月16日(2010.9.16)

【公開番号】特開2009-38460(P2009-38460A)
【公開日】平成21年2月19日(2009.2.19)
【年通号数】公開・登録公報2009-007
【出願番号】特願2007-199019(P2007-199019)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/64　(2006.01)
Ｈ０１Ｒ　13/73　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/64　５５１Ｒ
Ｈ０１Ｒ　13/73　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成22年7月30日(2010.7.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
外部接続端子が電子機器の前面側に実装された入出力部を、電子機器の筐体外へ引き出し及び前記電子機器の筐体内へ収納可能にする入出力部可動機構であって、
前記入出力部を前記電子機器の前面に対して斜め方向に直線的に移動させる移動手段を有し、
前記移動手段によって前記入出力部は、前記入出力部の前記外部接続端子の実装面が前記電子機器の筐体外に露出するように、前記電子機器の前面に対して斜め手前方向に移動することで前記電子機器の筐体外へ引き出され、
前記入出力部の外部接続端子の実装面が前記電子機器の筐体内に収納されるように、前記電子機器の前面に対して斜め奥行方向に移動することで前記電子機器の筐体外へ収納され、
前記入出力部の外部接続端子の実装面は、前記電子機器の前面に対向して、前記電子機器の前面に対して平行な面から、前記移動手段による前記入出力部の移動方向に水平な面までの間の所定の角度で設けられていることを特徴とする入出力部可動機構。
【請求項２】
前記所定の角度は、前記電子機器の前面に対して平行であることを特徴とする請求項１に記載の入出力部可動機構。
【請求項３】
前記所定の角度は、前記移動手段による前記入出力部の移動方向に水平であることを特徴とする請求項１に記載の入出力部可動機構。
【請求項４】
前記入出力部が前記電子機器の筐体の底面部から、前記電子機器の筐体外への引き出し及び前記電子機器の筐体内への収納が可能になるように、前記移動手段が設けられていることを特徴とする請求項１乃至３のいずれか一項に記載の入出力部可動機構。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】入出力部可動機構
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
本発明は、外部接続端子及び／又は操作部が実装された入出力部を有するテレビセット等の電子機器の入出力部可動機構に関する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
本発明は上記従来の問題点に鑑み、外部接続端子及び操作部の操作時に、外部接続端子や操作ボタンの視認性及び操作性を向上させることができる入出力部可動機構を提供することを目的とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
上記目的を達成するため、本発明の入出力部可動機構は、外部接続端子が電子機器の前面側に実装された入出力部を、電子機器の筐体外へ引き出し及び前記電子機器の筐体内へ収納可能にする入出力部可動機構であって、前記入出力部を前記電子機器の前面に対して斜め方向に直線的に移動させる移動手段を有し、前記移動手段によって前記入出力部は、前記入出力部の前記外部接続端子の実装面が前記電子機器の筐体外に露出するように、前記電子機器の前面に対して斜め手前方向に移動することで前記電子機器の筐体外へ引き出され、前記入出力部の外部接続端子の実装面が前記電子機器の筐体内に収納されるように、前記電子機器の前面に対して斜め奥行方向に移動することで前記電子機器の筐体外へ収納され、前記入出力部の外部接続端子の実装面は、前記電子機器の前面に対向して、前記電子機器の前面に対して平行な面から、前記移動手段による前記入出力部の移動方向に水平な面までの間の所定の角度で設けられていることを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
また、入出力部３は、図２（ａ），（ｂ）に示すように、テレビセット１の前面側に所定角度の斜め方向Ａ１、Ａ２に可動式であり、入出力端子／操作部３ａの反対面にＡ１、Ａ２方向に平行なガイド形状３ｂを有している。ガイド形状３ｂは、入出力部３の移動方向をＡ１、Ａ２方向に規定している。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
多くの電子機器を操作する場合、特にテレビセットでは人間が座った際に視線が表示範囲の中心付近にくるようにテレビセットを設置する場合が多い。したがって、本実施の形態のテレビセット１のように、表示パネル２の下側に設置されている入出力部３を操作する際は、操作者の目線を考慮すると操作方向は、水平から上方の範囲（図３（ａ）の範囲Ｊ参照）になる場合が多い。この場合、図３（ａ）において、可動方向Ａ１もしくは Ａ２と荷重Ｂ１もしくはＦの成す角度α１は大きくなるので、この時の荷重Ｃ１は小さくなる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図８】

